



福島県立二本松工業高等学校

同窓会 報

第15号

平成28年3月1日

発行所
福島県立二本松工業高等学校同窓会
〒964-0937
福島県二本松市瀬戸1丁目58/2
TEL 0243-23-0960
FAX 0243-22-7388
発行所 秋山孝雄
印刷 株式会社丸井工文社
発行部数 3,000部

校歌

詞 草野心平
曲 小山清茂

一日輪は 天にかがやき
阿武隈は 光る動脈
ここ榎戸の 美しき地に
目毎集まる われら若人
腕組まん ともに
学ばなん ともに
真善美 ひたに求めて
ああ母校 二本松
われらは愛す われらが母校
二新しく 時はめぐりて
安達太良に 白き雲沸く
ここ榎戸の 台地より見る
あの高きこそ われらが理想
眉あげん ともに
はげまなん ともに
大いなる未来 ひたに望みて
ああ母校 二本松
われらは愛す われらが母校

福島県立二本松工業高等学校

C O N T E N T S

同窓会会長挨拶	2
学校長挨拶	3
祝 受賞 御下賜金記念産業教育功労者表彰	4
学校近況	5
新会員のことば／進路状況	6
同窓会だより	7
母校だより	8

■ 松工Eメールアドレス
school@nihonmatsu-th.fks.ed.jp

■ 松工ホームページアドレス
<http://www.nihonmatsu-th.fks.ed.jp/>

同窓会会長挨拶



秋山 孝雄

プロフィール

昭和三十九年度機械科卒業
昭和四十年三月トヨタ自動車工業株式会社就職
昭和四十四年八月トヨタ自動車工業株式会社退職
昭和四十四年九月二本松市役所就職
平成十九年三月定年退職
平成十九年六月社団法人二本松法人会就職
平成二十三年五月退職
昭和六十年福島県野球連盟公認審判員 現在に至る
平成十八年五月松工野球部OB会設立 現在に至る
平成十九年七月行政書士資格取得 現在に至る

「挑戦」

早春の候、会員の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととご推察申し上げます。

本校は、技術者養成を目的として、昭和三十七年度に二本松工業高校が開校してから早や五十四年が経過しております。昨年度までに約一万一千名の方が卒業して国内外で活躍していることを思うと誠に頼もしい限りで、大いに飛躍することを

祈っております。

さて、今年度は、エルニーニョ現象の影響といわれている異常気象により世界的に災害が起きており、いっどこで災害が起きてもおかしくない状況となっております。鬼怒川の堤防決壊時にも甚大な被害が発生し、ヘリコプターで多くの方々の人命救助がなされたことは記憶に新しいことです。昨年の八月には四〇度近い日が一週間も続き熱中症になった方が多く出たかと思うと、今年の

一月には東京では一五度と例年になり気象状況を記録したそうです。

平成七年に発生した阪神淡路大震災は今年で二十一年、平成二十三年三月に発生した東日本大震災は今年で六年目を迎えます。今なお、仮設住宅で多くの方たちが生活していることを思うと、誠に心が痛みます。復興公営住宅の建設が遅れており、早急の完成が望まれております。

二本松の放射能測定値は、多い所でまだ平常時の十倍位或る所もあり、原子炉廃棄をするまでは、あと何年かかるか分かりません。目に見えない放射能と闘いながら生活することは福島県民にとって苦痛であり、子供たちの将来が心配でなりません。

新聞報道等では、南海トラフ巨大地震が近々発生し、「津波火災」が首都圏から九州の二十一都道府県で発生する可能性があると言測されております。

一昨年の十二月三日、世界中の夢と希望を載せた「はやぶさ2」が宇宙に向けて飛び立ちましたが、順調に飛行が続けていることが報道されております。約三億キロ離れた小

惑星「1999 J U 3」から試料を採取したカプセルを地球に持ち帰るという事です。五十二億キロ、六年の宇宙旅行から帰還するのは二〇二〇年（平成三十二年）、東京オリンピック開催の年だそうです。

この事業には、「はやぶさ2」の中核として技術を担った県内の優秀企業等も参画しており、誠に頼もしい限りであります。

今年も我が後輩たち十二名が国家試験、第一種電気工事士、工事担当者DD一種、DD三種に合格しました。課外授業を指導していただいた先生、チャレンジした生徒の皆さんに温かい拍手を送りたいと思います。

また、全国・東北のスポーツ大会に出場した選手の皆さんには、激励会を開催し、激励金を交付したところでです。

間もなく年度末を迎え異動の季節を迎えますが、入学・進学・就職とちよつぱり不安を抱えながらも大きな「目標」を掲げ、勉学に、スポーツに、そして職場に失敗を恐れず大いに「チャレンジ」しようではありませんか。

学校長挨拶



高梨 哲夫

プロフィール

猪苗代町生まれ。専門教科は工業（機械）。趣味は、山歩き（山菜取り）と畑仕事等。平工業高校、小高工業高校、清陵情報高校、川俣高校、福島工業高校、再び川俣高校、郡山北工業高校、勿来工業高校に勤務し、平成二十七年四月に本校に着任し現在に至る。

「近況報告」

本校は昭和三十七年四月、地域社会からの強い要請により、産業教育の振興と中堅技術者の養成を使命とし、安達地区唯一の県立工業高校として、「榎戸の丘」に開校されました。創立以来五十四年が経ち果立った同窓生は一万一千名を超え、地元企業をはじめ工業界はもとよりあらゆる分野で活躍されておりますことは、誠に心強いものがあります。

本校同窓会は、秋山孝雄会長を中

心に本校の発展に大きく寄与されてこられました。これまでに、部活動での上位大会出場への激励など、様々な事業・活動を通じて教育環境の維持・向上に重要な役割を果たされておられますことに、心から感謝申し上げます。

お陰様をもちまして、本日ここに第五十二回卒業式を迎え、新たに百四十六名を送り出すことになりました。社会に出て何より支えになるのは、同窓生の皆様の存在であります。新社会人となる後輩たちに、ぜ

ひ、温かいご支援をお願いいたします。

本年度の本校の近況について、簡単に紹介いたします。

○進路状況について

本年度も、十五年連続100%を達成することができました。これもひとえに、諸先輩方の会社での活躍や地域企業から「松工生ならば」と言う信頼関係があったからこそだと思います。

○部活動について

運動部並びに文化部においては、夜遅くまで練習に励んでおり、カヌー部が全国大会に出場することができました。今後の活躍に期待していただき、更なるご声援をお願いいたします。

○ものづくり教育について

資格取得では、第一種・第二種電気工事士試験や工事担任者、三級技能士旋盤作業などに数多く合格しております。また、福島県ものづくりコンテスト2015旋盤競技において準優勝するなど、今後も工業高校として「ものづくり教育」を推進し、ものづくりをととした「人づくり」に尽力し、実社会で通用する人材育

成を目指してまいります。

○施設・設備について

オイルタンク更新等工事が昨年末に、教室棟耐震改修（Ⅰ期）工事（グランド側）が年度末に完了し、引き続きデザイン等大規模改造工事が開始されます。設備面では、機械システム科に汎用旋盤六台と、同時五軸MC・CAD/CAMシステムが導入されます。

最後になりましたが、同窓会の皆様におかれましては本校の取り組みにご理解・ご協力を頂き、温かいご支援をお願いいたしますとともに会員の方々の一層のご健勝をお祈り申し上げます、ご挨拶とします。



祝 受賞

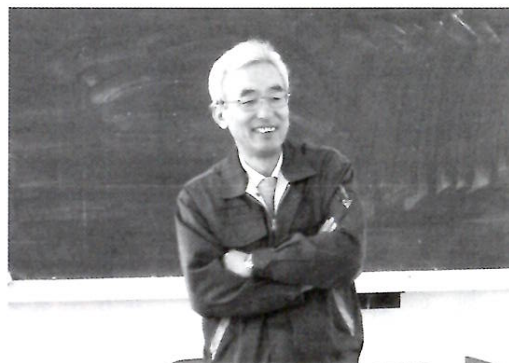
御下賜金記念産業教育功労者表彰

本校同窓会事務局として御尽力されてきた都市システム科の小形義元先生が昨年十一月に「御下賜金記念産業教育功労者表彰」を受賞されました。この賞は産業教育に顕著な功労のあつた教職員に対して授与されるものです。工業科の教科指導はもちろん、部活動でもソフトテニス部を率い、数々の実績を残されてきました。

これまで四十二年間、豊富な知識と経験で生徒に深い愛情をもつて優しく御指導されてきた小形先生も、今年度定年退職を迎えられることとなりました。

同窓会事務局の中心として、数多くの事業に尽力されましたことに、心より感謝申し上げます。

受賞を



『四十二年の歩み』

小形 義元

昭和四十九年四月一日、母校である、県立二本松工業高校土木科に着任いたしました。着任式では、先日までご指導頂いた先生方の前で着任の挨拶でしたので、緊張のあまり何を話したのか全く覚えておりませんが、暖かい激励の拍手を頂いたことを今でも覚えております。以来二本松工十九年、喜多方工三年、二本松工十一年、福島工三年、二本松工六年、勤続四十二年無事に定年を迎えることとなりました。

私自身同窓生であり、二本松工高の同窓会事務局員として三十六年間、同窓会の会務を担当させて頂いたとき、周年記念事業では、校門・中庭造園（昭和四十六）、校歌碑（昭和五十六）、校章・校名板（平成四）、校訓碑（平成十四）、応援歌碑（平成二十四）などの事業に携わることで、また、同窓会会員名簿の作成、平成十三年には同窓会会報第一号を発刊し、現在第十五号の発刊に向けて準備しております。

す。これまで、多くの会員の皆様、役員の皆様のお力添えをいただき、事務局員として会務を遂行できましたこと感謝申し上げます。

本校の同窓生は一万二千百七十八名となり全国各地で活躍しております。そして、これまで多くの同窓生の皆様に、同窓会そして後輩へご支援いただき、二本松工業高校の発展にご尽力いただきました。今年度新たに百四十六名の卒業生を迎え、同窓会の今後ますますの発展を期待しています。また、今後とも二本松工業高校生の活躍と、同窓会事業へのご理解とご協力を頂ければと思います。

最後になりますが、これまで多くの皆様のお力添えをいただき、心から感謝申し上げます。これからも同窓生の一人として少しでも役に立てるよう、バックアップしていきたいと思っています。同窓会の益々の発展と、同窓生の皆様のご活躍を祈念しております。ありがとうございました。

平成25～27年度 年間資格・検定試験取得数

平成28年2月17日現在

国 家 資 格					検 定 試 験				
資格名		平成 25年	平成 26年	平成 27年	資格名		平成 25年	平成 26年	平成 27年
電気工事士	第1種	25	17	9	実用英語検定	準2級	0	0	1
	第2種	18	16	27		3級	4	0	0
危険物取扱者	乙1類	5	2	1	リスニング英語検定	1級	0	0	0
	乙2類	2	7	0		2級	3	14	1
	乙3類	6	2	0		3級	22	25	10
	乙4類	20	8	8	計算技術検定	2級	5	0	2
	乙5類	3	4	0		3級	135	133	137
	乙6類	8	3	1	漢字能力検定	2級	1	0	—
消防設備士	乙4類	0	0	1		準2級	3	5	—
2級土木施工管理技術検定		0	3	5		3級	3	19	—
車両系建設機械 運転技能者	小型車両	23	11	45		1級	0	0	3
	フォークリフト	87	63	52	情報技術検定	2級	35	17	8
	小型クレーン	16	24	42		3級	55	17	37
	高所作業	15	13	5	実用数学検定	準2級	0	1	0
	締固用機械	17	6	15		3級	0	0	0
	玉掛け	41	34	36	基礎製図検定		24	43	35
工事担任者	A I 1種	0	0	0	機械製図検定		44	16	35
	DD 1種	1	4	2	測量技術検定	1級	29	27	32
	DD 3種	17	15	7		2級	33	32	27
技能士	2級	2	1	0	パソコン利用技術検定	2級	3	0	0
	3級	2	2	—		3級	34	69	94
					品質管理検定 (QC 検定)	4級	0	7	—

平成27年度 各種大会成績

■カヌー部

○第61回福島県高等学校体育大会

カヤックフォア 優勝 佐久間楓都・渡辺亮太
渡辺俊太・水木勇斗
カナディアンペア 優勝 竹山郁浩・渋谷 洸
カナディアンシングル 優勝 斎藤潤輝

○第68回福島県総合体育大会

カヤックシングル 準優勝 渡辺亮太
第3位 佐久間楓都
第6位 渡辺俊太
カヤックペア 第2位 渡辺亮太・渡辺俊太
第3位 佐久間楓都・水木勇斗
カヤックフォア 優勝 佐久間楓都・渡辺亮太
渡辺俊太・水木勇斗

カナディアンシングル 優勝 斎藤潤輝
準優勝 渋谷 洸
第3位 竹山郁浩
カナディアンペア 優勝 竹山郁浩・渋谷 洸

○第18回東北高等学校カヌースプリント選手権大会

カヤックフォア 第8位 佐久間楓都・渡辺亮太
渡辺俊太・水木勇斗
カナディアンシングル 第9位 斎藤潤輝
カナディアンペア 第8位 竹山郁浩・渋谷 洸

○第42回東北総合体育大会

カヤックペア 第4位 佐久間楓都・渡辺俊太
カヤックフォア 第3位 佐久間楓都・渡辺亮太
渡辺俊太・水木勇斗
カナディアンシングル 第3位 斎藤潤輝

○第70回国民体育大会

カナディアンシングル 出場 斎藤潤輝

■ソフトテニス部

○平成27年度福島県高等学校新人体育大会 県北地区大会
個人戦男子 優勝 安喰 楓・武藤勝幸

○第45回福島県高等学校ソフトテニスインドア選手権大会
県北地区予選

個人戦男子 優勝 安喰 楓・武藤勝幸
団体戦男子 第3位

■弓道部

○第68回福島県総合体育大会 県北地区予選
個人の部 準優勝 鹿又大貴

○福島県弓道新人大会 県北地区予選
個人の部 優勝 鹿又大貴
団体の部 準優勝

■野球部

○第67回春季東北地区高等学校野球福島県大会 県北支部予選
準優勝

■山岳部

○第61回福島県高等学校体育大会
優秀パーティ
鈴木将志・田巻 怜
武井直哉・鈴木雅彦

■柔道部

○第68回福島県総合体育大会 県北地区予選
少年男子 大将の部 準優勝 馬場勇次

■陸上部

○第70回陸上競技選手権 県北地区予選
男子5000m競歩 第3位 國分孔一郎
女子400mハードル 第3位 清水千佳

■機械システム科

○福島県高校生ものづくりコンテスト2015
機械系旋盤作業部門 準優勝 渡邊晃人
○第4回福島県高等学校溶接技術競技会
第8位 渡邊大聖

■情報システム科

○平成27年度二本松市発明くふう展
児童・生徒の部 二本松市長賞
○第22回福島県高等学校ロボット競技大会
第7位 山下珠宇・三瓶 光

新会員のことは

三年三組 佐藤 直希

私は、二本松工業高等学校で三年間過ごし、たくさんの方を経験してきました。

三年前の私は期待と不安の入り混じった中で入学してきました。すぐにクラスの友達と馴染むことができ、球技大会等ではクラス対抗で表彰をもらうこともできました。三年に一度のくろがね祭は一年生の時に行われましたが、様々なアイデアや工夫などが施され、各クラス最高の出し物ができました。二年生での修学旅行では、アクシデントがありましたが、楽しい四日間を過ごすことができました。三年間は、あつと言う間に過ぎた気がします。学業の面では、特に資格取得に尽力しました。工業高校ならではの練習はもちろん、座学でも資格取得に繋がるものが多くあり、自分の就きたい職に直結する資格が取得できました。

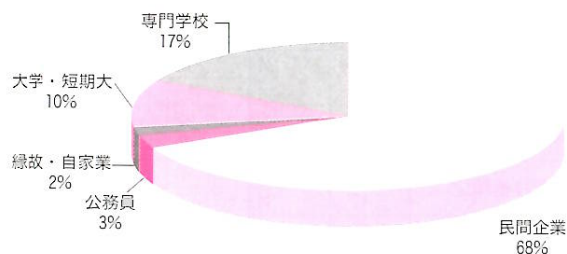
松工で過ごした三年間はとても充実したものであり、かけがえのないものになりました。その三年間を一緒に過ごしたクラスメイトと同窓会に入会できることを嬉しく思います。

同窓生としての自覚を持ち、社会人として成長できるよう頑張りたいと思います。

皆様方の温かいご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。

平成27年度 進路内定状況

(平成28年3月1日現在)



学科名	卒業 予定者	民間 企業	公務員	緑故・ 自家業	大学・ 短期大	専門 学校
機械システム科1組	36	22	2	1	2	9
機械システム科2組	37	24	0	0	4	9
情報システム科3組	36	27	0	0	9	0
都市システム科4組	37	26	2	2	0	7
合 計	146	99	4	3	15	25

就職 県内 (66社92名)	
アルス株式会社	株式会社でんさん
株式会社アマダオートメーションシステムズ	トヨタ工機株式会社
株式会社青木食品	株式会社トヨタレンタリース福島
有限会社青基プレス工業	東間工業株式会社
株式会社イーテック	東北江南株式会社
石橋建設工業株式会社	株式会社ナルコ郡山
内堀工業所	株式会社日ビス福島製造所
宇部樹脂加工株式会社二本松工場	株式会社日東福島工場
AGCエレクトロニクス株式会社	二本松シーリング工業株式会社
NECネットワークプロダクツ株式会社	日特エンジニアリング株式会社
NOKエラストマー株式会社東北事業所	日本電産コバル株式会社郡山事業所
エムケー物流株式会社	株式会社野地工業所
株式会社エフエフケイ	株式会社野地組
オオイケテニカ株式会社福島工場	柏洋硝子株式会社二本松工場
大槻建設工業株式会社	パーフェクトン株式会社
菅野建設工業株式会社	パナソニックエクスセルプロダクツ株式会社
壁泉建設株式会社	株式会社日高電設
北芝電機株式会社	福島キヤノン株式会社
株式会社協栄製作所	福島サンケン株式会社
株式会社花屋(空の庭)	福島プラスチック株式会社
株式会社佐藤組	北光金属株式会社岩代工場
斎藤建設工業株式会社	株式会社丸や運送
白沢鉄筋工業株式会社	前澤給装工業株式会社福島工場
株式会社CKF	有限会社マツモト工業
株式会社須南電設	有限会社丸中建設
ソーエナジー・デバイス株式会社郡山事業所	みちのく安達農業協同組合
株式会社高電	株式会社宮本樹脂工業
株式会社田口型範二本松工場	美和電気工業株式会社
高橋電機株式会社	有限会社武藤測量事務所
大室建設株式会社	ヤマニ建設株式会社
大七酒造株式会社	株式会社ヤクルト本社福島工場
テクノメタル株式会社	友志興業
天昇電気工業株式会社福島工場	ライオン菓子株式会社二本松工場

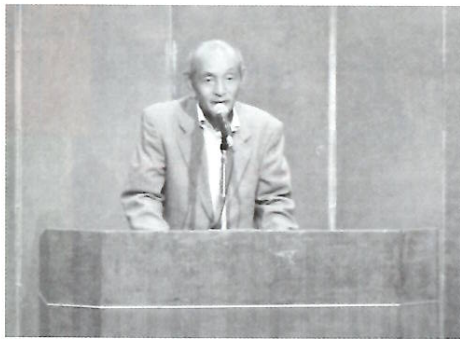
就職 県外 (10社10名)
株式会社カクヤス
株式会社キリウ
株式会社コメリ
仙建工業株式会社
株式会社椿本チエイン埼玉工場
トビー工業株式会社綾瀬製造所
トヨタ自動車東日本株式会社
東北電力株式会社
東京セキスイハイム施工株式会社
株式会社ロピア

就職 公務員 (4名)
自衛隊一般曹候補生
東京都職員Ⅲ類(土木)
福島県警察官B
福島市職員(消防)

進学 大学 (3校13名)
日本大学工学部機械工学科
日本大学工学部電気電子工学科
日本大学工学部情報工学科
東日本国際大学福祉環境学部社会福祉学科
東京国際大学人間社会学部スポーツ科学科

進学 短期大学 (2校2名)
福島学院大学短期大学部保育第一部
聖和学園短期大学キャリア開発総合学科

進学 専門学校 (15校25名)
県立テクノアカデミー浜
国際情報工科大学校
郡山ヘアメイクカレッジ
福島介護福祉専門学校
国際ビューティ・ファッション専門学校
郡山情報ビジネス公務員専門学校
国際アート&デザイン専門学校
郡山健康科学専門学校
福島医療専門学校
セイセンビジネス公務員カレッジ
花壇自動車大学校
大宮国際動物専門学校
東京メディカル・スポーツ専門学校
仙台工科大学校
東京動物専門学校



平成二十七年福島県立二本松工業高等学校同窓会総会が、平成二十七年七月二十五日（土）に二本松御苑にて高梨哲夫校長と佐藤忠司前会長のご臨席を賜り開催されました。

挨拶の中で、秋山孝雄会長からは同窓会の団結と卒業生の活躍などについて、また、高梨哲夫校長からは赴任の挨拶と学校の様子、同窓会の協力などについて、そして佐藤忠司前会長からはさらなる同窓会の発展について、それぞれご挨拶をいただきました。

議事を進めるにあたって、高橋薫氏（昭和四十九年機械科卒）を議長に指

同窓会 だより ■ 総会報告 ■

名し、終始和やかに進みました。第一号議案平成二十六年度事業報告、第二号議案平成二十六年度決算報告並びに会計監査報告、第三号議案平成二十七年事業計画、第四号議案予算はすべてスムーズに可決されました。その他のところで、会報委員会より同窓会報の在り方についてお話があり、今後の検討事項とすることを確認しました。

総会後の懇親会には二十三名の参加をいただき、会員の近況報告などで盛り上がり親睦を深め、有意義な時間を過ごすことができました。会員のさらなる結束を誓い、そして来年度は多数の参加者を期待し、盛大なうちに終わることができました。

■ 平成26・27年度同窓会役員 ■

役 職	氏 名	卒業年度	科
会 長	秋 山 孝 雄	S39	機 械
副 会 長	丹 治 茂 雄	S40	機 械
〃	渡 邊 保 夫	S41	土 木
〃	大 内 正 義	S44	電 気
〃	菊 地 清 義	S44	電 気
〃	熊 谷 勝 則	S49	土 木
会 計 監 事	高 橋 薫	S49	機 械
〃	山 川 博 徳	S55	土 木
〃	鈴 木 新 栄	S60	機 械
〃	小 沢 源 太 郎	S60	土 木
理 事・事 務 局 次 長	高 橋 周 平	H 5	電 子
理 事	齊 藤 喜 市	S41	土 木
〃	大 内 庄 五 郎	S41	電 機
〃	星 光 一	S42	機 械
〃	同 部 昭 一	S42	土 木
〃	安 斎 八 郎	S42	土 木
〃	野 地 司 朗	S44	機 械
〃	尾 形 巳 芳	S47	電 気
〃	本 田 正 秋	S47	土 木
〃	星 盛 彰	S48	機 械
〃	鶴 原 正 一	S49	土 木
〃	高 橋 道 夫	S51	機 械
〃	高 橋 道 夫	S53	機 械
〃	安 斎 邦 衛	S54	機 械
〃	清 水 実 美	S57	電 気
〃	尾 形 浩 美	S58	機 械
〃	加 藤 高 洋	S59	土 木
〃	金 子 智 弘	S60	土 木
〃	朝 倉 雅 也	H 6	土 木
〃	二 階 堂 卓 也	H12	機 械
〃	菅 野 健 太	H12	機 械

職 間	氏 名	備 考
初代会長	鈴 木 清 治	
二代会長	同 相 利 和	
三代会長	佐 藤 昭 三	
四代会長	菅 野 吉 次	
五代会長	佐 藤 忠 司	
学 校 長	高 梨 哲 夫	

選考委員会	氏 名	卒業年度	科	備 考
会 員 長	丹 治 茂 雄	S40	機 械	副会長
副委員長	菊 地 清 義	S44	電 気	副会長
委 員	高 橋 周 平	H 5	電 子	理事・事務局次長
〃	星 光 一	S42	機 械	理事
〃	安 斎 邦 衛	S54	機 械	理事
〃	小 形 義 元	S48	土 木	事務局

会報委員会	氏 名	卒業年度	科	備 考
委員長	大 内 正 義	S44	電 気	副会長
副委員長	齊 藤 喜 市	S41	土 木	理事
委 員	本 田 正 一	S47	土 木	理事
〃	橋 本 正 一	S51	土 木	理事
〃	高 橋 道 夫	S53	機 械	理事
〃	菅 野 健 太	H12	機 械	理事
〃	佐 藤 孝 則	H 5	電 気	事務局

事 務 局	氏 名	卒業年度	科	備 考
事務局長	鈴 木 正 美	H 5	電 子	都市システム科
事務局次長	高 橋 周 平	H 5	電 子	理 事
〃	佐 藤 喜 市	H 5	電 気	情報システム科
事務局員	甲 賀 豊 光	S48	土 木	都市システム科
〃	小 形 義 元	S48	土 木	都市システム科
〃	本 田 浩 史			機械システム科
〃	草 野 裕 次			都市システム科

■ 平成26年度同窓会収支決算書 ■

収入の部 合計 1,273,904 円

科 目	26年度予算額	26年度決算額	増減額	備 考
会 費	850,000	825,000	△25,000	165人×5,000円
入 会 金	290,000	254,000	△36,000	145人×2,000円、退会18名
雑 収 入	40	44	4	預金利息等
繰 越 金	194,860	194,860	0	
計	1,334,900	1,273,904	△60,996	

支出の部 合計 1,004,858円

科 目	26年度予算額	26年度決算額	残 額	備 考
会 議 費	250,000	140,658	109,342	役員会、同窓会総会
行 事 費	25,000	18,000	7,000	入会式
通 信 費	35,000	33,444	1,556	ハガキ、切手
会 報 費	180,000	144,072	35,928	会報発行
慶 弔 費	30,000	8,000	22,000	香典、その他
記念品費	160,000	150,684	9,316	卒業記念品
後 援 費	200,000	142,805	57,195	激励金、広告
事 業 費	200,000	184,615	15,385	会報発送等
事業積立金	100,000	100,000	0	事業積立金
事 務 費	150,000	82,580	67,420	デーク入力費・ロッカー・事務用品
予 備 費	24,900	0	24,900	
計	1,334,900	1,004,858	330,042	

残 額 269,046円

激励金贈呈



上位大会へ出場するカヌー部の皆さんを激励



にほんまつ産業祭



<機械システム科>



<情報システム科>



<都市システム科>

二本松市合併十周年記念行事の一環として、平成27年11月14～15日に二本松市城山総合体育館にて「にほんまつ産業祭」が開催されました。

本校からは学習成果発表として、機械システム科の「ロボット相撲で遊ぼう」、情報システム科の「ロボットを使ったボール運び競争」、都市システム科の「トータルステーションの体験」のコーナーを設け、各科それぞれ特色のある取り組みを紹介しました。

14日は、あいにくの雨でしたが、多くの方々に来場していただくことができました。

編集後記

本誌十一号（平成二十四年）

後記で「まもなく大震災から一年、福島県は放射能被害があり復興にはまだまだ時間がかかりそうです」丹治会報委員長は原発事故の様子を伝え、一方で「本校は一人を超える卒業生を社会に送り出し、五十周年記念行事を開催」と松工の躍動を復興の力に例え励ましています。あれから五年。昨年九州電力、今年は中部電力高浜原発が再稼動。

司馬遼太郎は「この国の形」と表現しているが、その心象黙して領くばかり。しかしである。松工に行くした後輩の熱気溢れる姿に会える。清々しい会話に元気をもらうこともできます。「今年は母校を訪ねてみるか！」足を伸ばしてはいかがだろう。

会報委員長 大内正人
委員 斎藤喜市、本田 正
橋本正一、高橋道夫
菅野健太
事務局 佐藤孝則